

(様式2)

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591700149		
法人名	特定非営利活動法人 心つくし会		
事業所名	グループホームありがとうの家 小新保		
所在地	新潟県五泉市村松1289-1		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignkensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成31年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境の良さ何より職員のチームワークの良さがPRポイントだと思っています。広々とした敷地の一角に日本庭園が配してありますが、季節ごとの木々の表情がご利用者の視覚を楽しませてくれます。合わせて、庭先に遊んでいる小鳥たちの姿に癒されます。近所にある法人系列保育園の子どもたちの散歩のコースになっている事も、天気の良い日にはかわいい子供たちが遊びに寄ってくれます。また、敬老の日にはお祝いに子供たちが駆けつけてくれ手作りのプレゼントを届けてくれたりと、かわいい子供たちとの交流を楽しみにしています。馴染みの商店へ買い物に出かけたり、法人主催の地域交流行事である春のお花見会、夏は納涼祭。盆踊りはご家族と一緒に踊りの輪に入って踊りました。秋には芋煮会。地域特産の里芋がたっぷり入った絶品芋汁と新米のおにぎりを秋空の下頬張り食欲の秋を満喫しました。会場で提供されたおにぎりの中身の梅干しは、ご利用者と職員が前年度この日のために、漬けたものでした。美味しかったと声かけられとても嬉しそうでした。作品展では、自分たちの作品を見つけて喜ばれたり、バザー会場で、美味しいお昼を食べきたりと、楽しい時間を過ごしていただきました。行楽ドライブは、地域の名所や古利などをめぐるコースや、ちょっと遠い所で新潟空港、フラワーランドといった近場へも、度々おじゃましています。年々、認知症の進行やADLの低下もあり気持ちが沈みがちな事も多くなりがちですが、地域との交流や催し物に積極的に参加をしていく事で気分転換を図り、あたたかい気持ちになって頂きたいという思いを、職員は大切に考えています。ご利用者様のお誕生会や行事の際には、職員も踊ったり頂いたり楽しみ事は全員で楽しめます。そんな楽しみ事が大好きな職員が多いですから、チームワークはいいと感じています。開所から5年目を迎え自分たちが働きやすい環境作りを大切に考えてきました。介護の方法や接遇面での意見の相違は度々あっても、相談しながら当施設の空間を作ってきたと思っています。平均年齢も年々上がってきてはいますが、ご利用者様にとって安心できる私たちであり続けたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人は、特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所、3つのグループホーム、保育園、有料老人ホームなどのほか、居宅介護支援、通所介護、訪問介護などの事業を運営している。開設して5年目を迎え、地域や近隣との交流に力を入れており、法人主催の文化祭などの行事には職員と利用者が一緒に作成した作品を出品して参加したり、法人本部の大きな桜の木で行うお花見会、各事業所の職員が地域のマラソン大会に仮装して出場するなど地域との交流を心掛けている。事業所の大きな窓からは遠くに白山が望め、緑豊かな日本庭園に飛んでくる小鳥の姿やさえずりに四季を感じることができる。また、日常的に保育園の園児が散歩がてら来訪し、利用者の顔を覚えて声をかけたり挨拶したりにぎやかに楽しい交流をしている。広いリビングでは、オープンキッチンで職員が食事作りをする傍らで利用者が皮むきなどを手伝っている。食材は地元産が殆どで、普段食べていた料理を利用者に楽しんでもらえるよう全てを手作りしており、プランターで育てたミニトマトなどの野菜を収穫してその都度料理を楽しんだり、梅干しや沢庵も利用者と一緒に漬けるなど、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。月1回開催される職員会議とケア会議では利用者のケアの相談や情報の共有に努めており、また、毎回法人理事長や事務長も参加して職員とコミュニケーションを図り、職員の提案や要望にも直接に話を聞く体制をとっている。管理者・職員は、利用者本位のケアを心掛けて、利用者にとゆつたりと安心して過ごしてもらえるよう日々取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や運営方針については、年度初めの会議において確認し、共有に努めている。提供する支援については、理念や方針に基づき実践している。また、理念については、常に目に出来るように事務所内に掲示している。	理念を事務所に掲示しており、年度初めの職員会議で確認し、また、12月の自己評価と個人面談でも再度確認して共有している。普段から判断に迷うことはミーティングやケア会議などでその都度理念に立ち返り、理念に基づく支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人主催の地域行事への参加。馴染みの商店街での買い物、散歩などで地域の一人としての交流に努めている。	日常的には近くの商店街やスーパーへの買い物時の交流のほか、近くの同法人の保育園の園児の散歩時の交流を楽しみにしている。法人主催の文化祭や花見の会などでも地域の人達と交流しており、町内には広報誌「ありがとう便り」を文書を添えて回覧している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の特徴や、活動内容について広報誌などで広く地域に紹介している。ありがとうカフェを開催し、地域の方、ご利用者様の交流を図りながら、介護相談等の話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の現況や、研修、訓練状況を報告している。認知症ケアの取り組みについて報告し、ご理解や助言をいただきサービスに活かすようにしている。	固定メンバーは地域住民の代表、家族会の代表、地域包括支援センター職員、市の担当者、民生委員、隣の内科医院医療関係者となっている。毎回ではないが消防署の職員も参加しており、利用者にも参加しやすいよう働きかけをしている。12月に行われる「大黒様の嫁どり」という地域の伝承行事にメンバーと一緒に参加して食事を共にするなど利用者で交流してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、地域包括支援センターの担当者には、会議開催の都度に案内を出し、都合のつく時に参加いただいている。会議の際には事業所の実情を報告し助言をいただいている。	市の担当者は定期的に運営推進会議に参加しており日常的にも連携している。市主催の研修会に参加したり、地域包括支援センター職員に身体拘束の研修講師を依頼するなど相談しやすい関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所マニュアルに基づいた研修を実施し身体拘束をしないケアの実践に努めている。夜間帯以外、玄関は施錠していない。	身体拘束に関する内部研修を年間計画に組み込み年4回実施している。転倒、骨折による手首のギプスの装着の場合についても、職員全員で考え話し合い、行動制限を行わないようなケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する法令について学ぶ機会を設けている。事業所内の生活のなかでも虐待が起こらないように、また見過ごすことの無いように職員同志が注意を払っている。	虐待防止についても内部研修を年間計画に組み込んで毎年実施し、周知を図っている。職員のストレス軽減のために、話しやすい環境づくりや声かけをしたり、ケア会議等で支援方法を確認するなど虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度は学ぶ機会を持っている。必要な関係者があればそれらを活用していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、解約条件や必要な手続き等について説明を行いご理解いただいている。質問や疑問についてはその都度回答をし納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の様子など、また連絡事項についてはご家族と密に連絡を取るよう努めている。面会時には訪問者とのコミュニケーションを大切にし意見や、要望が言いやすい環境、関係作りにも努めている。	相談箱を設置しているが意見が入ったことはなく、面会カードの自由記載欄には意見というよりは感想が書かれていることが多い。家族からの要望によりできるだけ外出できるように支援している。また、家族とは面会時や電話などで関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催の職員会議には、法人理事長が毎回出席している。会議で出された意見や提案について検討し必要時反映させてもらっている。	月1回の職員会議には、法人理事長も毎回参加している。利用者の身体機能の低下による転倒等リスクに対応するためウッドデッキに手すりを設置することが提案され、早速取り外し可能な手すりを設置した。利用者は安全に手すりにつかまりながら外の景色を見たり園児との交流を楽しむことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人面談などで職員個々の努力や実績等の現状について理解、把握に努めやりがい、働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人ひとりの必要に応じた研修への参加を促し実践力の向上に努め、働きながらスキルアップしようとする職員を応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の連絡協議会に参加し、意見や情報の交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様に基本情報シートの作成をお願いし、在宅時の生活歴等を十分に把握しコミュニケーションを図りながら要望や意向を確認し安心につながる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事や、不安、要望等を傾聴し、話のしやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の思いをくみ取るように努め、ご家族様の要望を聞き必要としている支援を見極めるように努めている。また、当事業所で田尾いうできる支援と他のサービスの説明を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の出来る事については積極的に声かけして参加を促し、苦手や困難な事については一緒に関わり楽しみや達成感を感じていただけるように努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、可能な範囲内で通院の付き添いや面会をお願いしている。ご本人様との絆、繋がりを大切にしながら良好な関係が継続できるように努めている。	家族には受診同行等のほか、受診結果の報告、定期的な外出など協力を得ている。行事やイベントの案内を送付したり、広報誌の送付時には担当職員が利用者の近況を手紙に書いて同封するなど、家族との関係構築に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や、知人の訪問は温かく迎え入れられている。希望があれば行きつけの商店への買い物に同行している。ご本人様がこれまで大切にしてきた思いや関係が途切れることのないように支援に努めている。	入居前からの友人や近隣の方の来訪時にはくつろいでゆっくり過ごしてもらえよう配慮し、利用者に関する新たな情報を聞かせてもらったりしている。利用していた商店や床屋などへも出かけて関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性や習慣を把握し、お互いの雰囲気や関係が安心して良好なものであるように、必要時介入しながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった場合には、ご本人様のこれまでの生活の様子や、支援方法について住み替え先の関係者に細かく伝達しご本人様の、混乱や困惑が軽減されるように配慮した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中から、ご本人様の意向や希望を、聞き取るようにしている。困難な場合には生活歴や、表情、声のトーンなどを観察し、ご本人様の意向少しでも沿った支援が出来るように努めている。また、気づいたことは記録に残し、職員間で共有している。	利用者の希望や思いは日常の関わりの中で聞き取るよう努めているが、言葉で把握することが難しい場合は利用者の様々な表情やしぐさ、反応、行動などを観察して把握している。把握した情報は連絡簿やケース記録に残したり、ミーティングで話をして共有を図っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、これまでの生活歴を情報シートに記入いただいている。また、日々の生活のなかで知り得た情報等は、ケースやシートへ記入する事で職員間の情報の共有に努めている。	入居前の自宅訪問により、環境や暮らし方の意向などを確認している。入居後の日々の関わりの中で得た新たな情報は、筆記具の色を変えてケース記録に記入し、ケア会議でその都度共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムや、その日の心身の状況に努めている。買い物や、調理の下準備、洗濯物たたみなどできる事に協力をお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議などでご本人様の現状の課題について意見交換を行い、現状に即したサービスの提供が行われるように努めている。また、ご本人様やごP家族様の希望や意向の確認を行っている。	担当職員と計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、家族の意見や希望を反映させてケア会議で検討し、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングし、半年に1回見直しをしているが、状態変化時はその都度計画の見直しを行っている。	一連の介護計画作成の流れの中で、家族の意見や同意はもらっているが、担当者会議としての記録が整備されていない。今後は家族の役割として担当者会議への出席を働きかけ、家族を含む関係者で話し合っ て介護計画を作成することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活のなかでの様子や、気づきについて個々のケースへ記入し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や外出などで、ご家族様の対応が困難な場合には職員が対応している。ご本人様のストレスや心配、不安、ご家族様の負担が増えないように、その時々に必要なニーズに柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所への外出支援を通してご家族様や友人とのつながりを大切にし、これまでの関係性がと切れないよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係は継続し、受診の際には、日々の様子について口頭、手紙、生活シートでの情報提供等で詳しく伝達し指示を仰いでいる。また、協力医に受診の際は必要時職員も同行し適切な医療が受けられるように支援している。	ほとんどの利用者は入居前からのかかりつけ医を継続している。皮膚科や歯科、心療内科はその都度往診を依頼しており、隣の内科には体調によって適時受診している。受診対応は家族に依頼しているが、必要に応じて職員も一緒に同行して情報提供したり、医師から指示を受けるなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職の配置はない。日々の中での情報や気づきなどは、受診の際や必要時主治医や医療機関へ報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、面会に出向きご本人様やご家族様との関わりが途切れないように努めた。また、病院関係者と情報の交換を行い安心して治療に専念し退院に向けて支援した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に利用条件および退去条項についても説明し、同意頂いている。重度化が予測される場合には、早い段階でご家族様と話し合い、主治医に相談し特養を含めた住み替えについて勧めることになる。	入居時に、契約書類に基づいて退居条件を説明している。状態変化時や重度化した時などは、主治医とも相談して具体例を挙げて家族に説明をしている。住み替えについても本人・家族の意向を考慮しながら支援している。指針等の文書の作成については今後検討していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて内部研修、外部研修を実施している。AEDの取り扱いについての研修を繰り返し受講することで実践に不安が無いようにしている。	研修委員が計画して消防署主催の救命講習を全職員が3年毎に受講しており、AEDの取り扱い方法についても毎年消防署の研修を受講している。特別養護老人ホームの栄養士や看護師の協力を得て6月には食中毒の講習会を、12月には感染症の内部研修を実施している。また、誤嚥や火傷、転倒などの事故対応についても研修を実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定し訓練を実施している。年に2回消防署立ち合いの下、総合消防訓練を実施し地域の方からも参加協力を頂いている。	6月は夜間想定で、9月は火災想定避難訓練を消防署の立ち合いの下で実施しており、地震想定訓練も組み込んでいる。日中は自治会長や隣の医院の看護師も参加し、夜間時は近隣住民の協力が望める。また、法人の合同防災訓練にも職員が参加して連携を図っており、備蓄品も3日分を確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念のもと、ひとり一人を年長者として敬う気持ちを忘れることなく、その方の誇りや人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけに努めている。	5月の内部研修で、個人情報の取り扱いについて基本方針、規程、同意書等を確認している。記録は事務室で行い、トイレや入浴の介助は希望に応じて同性介助をしている。トイレ3ヶ所はすべて食堂や広間から見える位置にあることから、声かけ時はプライバシーに配慮することに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中での表情や会話に耳を傾けご本人様の分かりやすい言葉かけで、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の生活のペースやリズムを大切に对应するように努めている。職員の都合が優先するような場合は、皆様に説明し了解を得るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の個性を大切にしながら、季節に応じた身だしなみや、洋服選びのお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の好みや状態を把握し、旬の地場産野菜やお米を献立に盛り込んでいる。献立の提案や調理の下準備をお願いしている。	献立は職員が交代で作成し食事委員がチェックしている。一人ひとりの好みも把握して嫌いなものは代替食にしたり、隠し包丁を入れて食べやすい形態にするなど工夫をしている。利用者も野菜の皮むきや下膳等を手伝っており、また、梅干しや沢庵を漬けたり、水ようかんを作ったりと楽しみながら一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、ひとり一人の習慣や必要に応じた形態での提供を行っている。お茶以外にもお好みの飲料が提供できるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの見守り、介助を必要とする方への対応を行っている。就寝時には義歯の消毒洗浄を実施し口腔トラブルの防止に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人に応じた排泄支援を実施している。排泄表を活用し、その方の排泄パターンの把握に努め声掛けや、誘導で自立に向けた支援に努めている。	夜間のみポータブルトイレを使用している方もいるが、利用者個々の排泄チェック表を活用して出来るだけトイレでの排泄を支援している。3ヶ所あるトイレはいずれも広く車いす対応になっている。入居前にリハビリパンツだった方が日中は布パンツに変更できた事例もあり、出来るだけ日中は布パンツで過ごせるように職員も自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表の活用で、ひとり一人の排便状況の把握に努めている。野菜や乳製品の摂取や水分補給を積極的に促している。必要時には、主治医の指示を仰ぎ下剤の投与などその方に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日固定にて実施している。希望があればその時々で柔軟に対応している。ゆっくりと入浴を楽しめるようにその人の好みの湯量や温度に配慮している。	入浴は週3回を目安に支援しているが、外出等で汗をかいた後はシャワー浴などを適時行っている。同性介助を基本としつつも安全に配慮して2人対応する場合もある。ゆっくりと入浴を楽しんでもらうことを心掛け、季節ごとにゆず湯、しょうぶ湯などを楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の習慣や状況に応じて休憩が取れるように工夫している。安心して入眠できるように、居室内の温度や照明、窓の採光の調節で室内環境をととのえ気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の処方箋を個人ケースにとじ込み、目的や用法、用量、副作用について周知できるようにしている。また、内服後は様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや外出、ドライブ等の活動に参加いただき一人ひとりの出来る事や楽しみな事の把握に努め、生活のなかで張り合いや役割を持つ喜びを感じて頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、個人の日用品の買い物、ドライブなどの外出支援を行っている。法人主催の地域交流事業である納涼祭や、芋煮会、文化祭への参加を楽しみにされている	天気の良い日は、近隣への散歩や、近くのドラッグストアやスーパーへの買い物に出かけており、また、法人主催の定期的な交流事業への参加、新潟市の水族館や新潟空港へのドライブなど全員で出かけて楽しんできている。お墓参りや自宅への外出など個人の希望の外出は家族の協力を得て実現されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には所持して頂いている。施設に管理依頼されている方には、買い物の支払いを一緒にするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人、知人への電話を希望される方には、その方の能力や希望に沿った形態での支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みなさまの共有スペースは、居心地がよく安心できるように家具の配置や、温度や照明に配慮している。季節の花を飾ったり、工作レクリエーションの作品を展示して生活感のある空間となるように工夫している。	共有スペースは広くゆったりとしており、テレビの前にはソファが置かれ利用者がゆっくりとくつろげるようにしている。大きな窓からは遠くに白山が望め、日本庭園の松やイチョウなどの木々に四季を感じることができる。廊下の壁には利用者が協力して作成した干支の絵を飾ったり、食堂には季節の繻玉が飾られ、和やかな温かい雰囲気がつくられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他、カウンターキッチンや、ソファセット、通路には休息用の椅子を設置。一人ひとりが思い思いに寛ぐことが出来る空間や、環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活空間は、安心して生活する事が出来るように、今までの思い出の品物や、馴染みの家具などをお持ちいただいている。	居室には利用者それぞれが暮らしやすいように、家族と相談をして馴染みの家具などが持ち込まれている。床は滑りにくい材質のフローリングであるが、毎日職員が利用者を手伝いながら、掃除機をかけたり、モップがけや水拭きをして清潔を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースのホールに安全に移動できるようにテーブルや椅子を配置し、各居室にはネームプレート設置、トイレはイラスト表示で分かりやすいように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				